

A	B	C	D	E	F
放射能濃度				(注) 受付番号逆順	
受付番号	検体名称	種類	市町村		
15063007	1	リネン布	その他	茨城県取手市	20
15063005	1	サクランボ	野菜・果物	山形県	20
15063004	1	尿(オムツ)	尿	山形県米沢市	20
15063004	2	尿	尿	山形県米沢市	20

③表示されたアイテムにはすべてにチェックが付いていますの(すべて選択)のチェックをクリックしてすべてのチェックを外します。

A	B	C	D	E	F
放射能濃度				(注) 受付番号逆順	
受付番号	検体名称	種類	市町村		
15063007	1	リネン布	その他	茨城県取手市	20
15063005	1	サクランボ	野菜・果物	山形県	20
15063004	1	尿(オムツ)	尿	山形県米沢市	20
15063004	2	尿	尿	山形県米沢市	20

④「尿」関係のアイテムにチェックを付与します(□をクリック)

放射能濃度				(注) 受付番号逆順				
15063004	1	尿(オムツ)	尿	山形県米沢市	2015	6	27	2015
15063004	2	尿	尿	山形県米沢市	2015	6	27	2015
15062203	1	尿	尿	福島県伊達市	2015	6	20	2015
15062203	2	尿	尿	福島県伊達市	2015	6	20	2015
15061701	1	尿	尿	福島県伊達市	2015	6	14	2015
15061701	2	尿	尿	福島県伊達市	2015	6	14	2015
15052603	1	尿	尿	福島県福島市	2015	5	22	2015
15052603	2	尿	尿	福島県福島市	2015	5	22	2015

⑤ OK をクリックすると「尿」関係のデータ行だけが抽出されます。

同様の手順で、抽出された「尿」関係データ行の中からほかの項目をフィルタリング(例えば「市町村」で「福島県」だけを抽出)することでより絞られたデータを得ることができます。

ちくりん舎の仲間 - こんな活動をしています -

## 塩谷町の「最終処分場問題」を通じて

とちの実保養応援団 岩間綾子

### <県境を越えた放射能>

福島第一原発事故による放射性物質は、福島との県境を越えて栃木県にもやってきました。放射能に危機意識を持つ仲間が集まり、「原発・放射能から子供を守る会・塩谷」(以下「守る会」)が立ち上がりました。町内の放射線量を測って学校の校庭除染の陳情を出したり、講演会や映画会・勉強会を開催するなど様々な活動をしてきました。その中で、子ども達の健康を守る一つの方法として「保養」というものがあることを知りました。

放射線量の上ってしまった地域で暮らす子ども達を一定期間きれいな場所で保養させることで、傷ついた細胞を修復し体内にたまった放射性物質を排出するスピードを速めること、チェルノブイリ事故から30年経った今でも、ウクライナやベラルーシでは国の支援で子ども達を保養に送り出

していること、原発事故以後、日本各地でこの保養活動が始まっていることを知りました。

私の子どももいくつかの保養団体にお世話になりました。当時まだ小学4年生だった息子を保養



さようなら原発栃木アクションにて保養啓蒙ダンス

キャンプに送り出した時には、「こんなに長い間、子どもを預けて大丈夫だろうか？」と心配しましたが、帰ってきた息子は一回り大きくなったように感じました。

「キャンプで一番辛かったことはなに？」と聞くと、「一緒に過ごした福島の子ども達と別れる時が一番辛かった…」と言って泣いていました。その姿を見て、保養で得られるのは体の休息だけではないんだと思いました。大自然の中で福島の子どもたちと語り合った思い出…命を守ろうと頑張る大人の後ろ姿…全てが息子の心の栄養となり、根っことなりました。

栃木県には福島県の中通りと同程度の放射能汚染の場所があるにもかかわらず、福島との県境で支援の格差が生まれています。私達は「とちの実保養応援団」を立ち上げ、栃木県の子ども達を保養に送り出す活動を始めました。

「メッセージを歌にすれば、多くの人に伝わるかもしれない」と思い、「保養にいきましょう～♪」と歌って踊る保養啓蒙活動も始めました。また、全国の保養活動団体のネットワーク「311 受入全国協議会」にも参加しました。

しかし、生産者の多いこの地域で放射能について話をする事の難しさ、時と共に風化する放射能問題の中で、活動は思うように広まならない日々が続きました。



放射性指定廃棄物・最終処分場の候補地 しょうじん 尚仁沢

<「最終処分場問題」をきっかけに……>

そんな中、2016年7月、栃木県内の8000ベクレル/kgを超える放射性指定廃棄物の最終処分場の候補地として、私達の町が突然環境省により指定されました。しかも指定された場所は、塩谷町の北部にある高原山たかはらの中腹、名水百選にも選ばれた関東の水源が湧き出る尚仁沢しょうじんの近く。

今までも数々の開発計画からこの山と水を守ってきた塩谷町の町民は一気に立ち上がり、町民一丸となった反対運動が始まりました。そして、「塩谷町民指定廃棄物最終処分場反対同盟会」(以下「反対同盟会」)が結成され、町中に町民の思いが込められたのぼり旗や看板が立ち並びました。

「守る会」の仲間も、「これ以上、子どもたちに被曝を上乗せしてはならない」と、精力的に反対運動に参加しました。そして有り難いことに、私達の意見も求められ発表させていただく機会も増えました。

しかし、私はとても複雑な思いでした。

「今まで放射能に無関心だったくせに、今さらなんだ。地域エゴじゃないか。私は町を守りたいんじゃない、子どもたちを守りたいんだ!」と…そんな時、ある方から言われた忘れられない言葉があります。

「みんな気付いた時がスタートなんですよ。今、声を上げ始めた人たちの姿は、数年前この活動を始めた頃のあなたの姿と同じなんじゃないんです



塩谷町 3000 人集会 反対デモ行進